

入賞作品詳細

1 東浦町（担当：政策課 電話番号：0562-83-3111）

部門	賞	作品名
広報紙 (町村部)	特選	『広報ひがしうら』(2024年12月号)

審査講評（公益社団法人日本広報協会）

学校給食は、無償化の是非、物価高騰のための給食業者の撤退、アレルギー対応での事故など、メディアでもその問題点がたびたび取り上げられており、地域の重要な課題だ。今、学校給食がどんな現状にあるのか、学校給食に携わる人たちの思いを地域の人々に知ってもらう意義は大きい。

この特集では、給食センターの1日や、給食の時間が、写真も交えて見やすく紹介されており、給食がどのように作られているかなどを具体的に示していて分かりやすい。さらに、それ以上に給食にかかわっている人たちの思いを伝えている。給食に直接携わる先生方の、思いをこめた生の声や、児童、生徒たちの正直で自由なコメントが興味深い。

同じ町で暮らす人たちがさまざまな思いを、周りの人々につなぐ意義を改めて感じた。

○『広報ひがしうら』(2024年12月号) 東浦町



○掲載意図（東浦町）

今年度の特集テーマは「学校給食」。学校給食は今、物価高騰、アレルギー対応、コロナによる行動制限の影響、学校での食の指導の変化などにより、大きな転換期を迎えており、テレビや新聞等でも時々話題に上がるキーワードだ。

しかし、学校給食の「今」は、学校給食に携わる人か、児童・生徒・先生し

か知らないのではと思った。特に、学校給食がどのように考えられ、調理されているのかは、学校給食を食べる児童・生徒・先生も知らないことが多い。

また、私自身も取材で学校を訪れた際、給食を楽しむ児童・生徒の様子を見てみると、自分が経験した小中学生の時の給食の時間とは違った様子であると感じていた。特に、給食を食べる机の向きや、「残さず食べよう！」という指導をしていない様子に驚いた。

そこで、学校給食の「今」を伝えるため、コロナ禍や時代とともに変化した学校給食の今を伝えつつ、しっかり給食や食事を摂ってほしいという学校給食に携わる人々の想いをカタチにした特集に仕上げた。

2 春日井市（担当：広報広聴課 電話番号：0568-85-6037）

部門	賞	作品名
ウェブサイト (市部)	入選	春日井市ウェブサイト
審査講評（公益社団法人日本広報協会） トップページは自治体カラーであるピンクと白でカラープランがなされている。ボタンには曲線デザインが多用され、シンプルだが使いやすく親しみやすい印象のデザインである。ボタンはボタンらしく、見出しは見出しらしく、テキストは整然と並び、誠実な設計思想が感じられる。 情報探索手段がファーストビューに集約されておりわかりやすい。必要な情報を素直に配置した結果として生まれた“スタンダード”なレイアウトであり、その明快さが魅力だ。トップページに表示するリンクを最小限にとどめることで、ユーザーを迷わせないシンプルな動線を実現している。 6項目のグローバルメニューも使いやすい。グローバルメニューの右にあって一際目立つ「探す」のボタンを押すことでグローバルメニューの分類項目ではわかりにくかったページを探すことができる。 ユーザーの目線に沿っており高評価である。		



キーワードで探す ?

ページIDで探す ?

イベント情報

催しや講座などの情報を掲載

チャットで質問[自動応答]

ごみの分別・子育てに関する情報など

手続きナビゲーション

対応窓口や必要なものを事前に確認

○特色・ポイント（春日井市）

【特色】

知りたい情報を誰もが簡単に入手できるよう、利便性が高く、また、市の花「さくら」の色彩を取り入れた温かみのあるデザインへと刷新。

【ポイント】

（１）検索性・スマートフォンからの閲覧性の向上

市の主要な情報のみを掲出するシンプルなトップページに、検索機能・便利機能を集約。当該機能を集約した常設の「探すボタン」から、防災情報等へのアクセスも可能。

暮らしの場面で必要となる手続きを一覧で表示する「手続きナビゲーション機能」を実装。

スマートフォン利用者には、指で操作しやすいよう画面下部にメニューを配置。

（２）情報分類・整理

各分類のボリュームや粒度を抜本的に整理。特に全体のページ数の３割を占める分類「市民生活ガイド」を中心に、市民が知りたい情報を探しやすくなるよう、「くらし・手続き」を始めとした６つの分類へと再構成。

（３）アクセシビリティ向上

日本語があまり得意でない利用者（外国人や子ども、障害者等）に向けた、「やさしい日本語自動変換機能」を実装。